



僕の後輩の
マシュがキモオタに
NTRれて孕まされる話

基本CG16枚(立ち絵2枚)
差分+本文96枚
テキストなし96枚
合計192枚

カルデア職員として
催眠コードを手に入れた
キモオタ研究員



催眠コードを使い
自分をマシユのマスターと
思い込ませる計画を実行した

「用事があると聞いて来たのですが……
あなたは……？」

「いやあお忙しいところスイマセン
私コマンドコードの研究の専門者として
実は、折り入ってマシユさんに
見て頂きたいものがあるんです」

見て頂きたいもの……？



「……れなんですかね」

「……」



「……」

「コマンドコード(催眠)刻印！」

ビクッ♡



「おはよう」

ア
ア
ア



「あれ？先輩……どうして「ジュニア」」

「どうやら効いてるようだな……」

「マッシュ、今日呼びび出したのは他でもない
先日の返事のことなんだ」

「先輩……」

「ボクもマッシュの事が好きだ
……愛してる」



「愛し合う二人がすることは……
分かってるよね？」

「で……でも……突然すぎて……」

「いいからボクの言うとおりにするんだ……」



「ハァ…ハァ…ハァ…ハァ…ハァ…」

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

「気持ち…いいれすか？先輩…」



「ああ……マシユのフェラチオは最高だな」

「ありがとう……」ぞい……ますっ……」

わる

わる

わる

「頬もつとすぼめて、舌を使うんだ」



「ああ……いいぞお……」

お

お

お

お

「(太くって……嬉しい……先輩のチンポ)」



「こんな……濃いザーメン……たっぷり……」

キッポ

とろろ

「ふう……マシユのフェラチオ、愛が籠ってて最高だった……
今度はパイズリしてほしいな」

「先輩……おっぱいが好きなんです……」

キュン

「ああ……マシユ……おっぱいも格別だな

「先輩……いっぱい私の胸で気持ちよくなってください……」

ホロ



「マジっ！のおっぱい……やわらかくて気持ちいいぞお……」

キモチよす……

モチモチ

モチモチ

「ありがとうございます……」

「照れちゃってかわいいなあ……
今日は一杯愛し合おうね」



「柔らかい感触がたまんねえ……」

「んっ……んっ……」

「もっと胸を押し付けて……
ボクを気持ちよくさせるんだ」



「んっ……でしようか……?」

「いいぞ……」

乳圧がチンポをギュツギユと締め付けてくる……」

グ
ニ
ニ
ニ
ッ

「んっ……んぶっ……」

「あー……いきそうだった……イクぞー!」

ッ
ッ
ッ



「ザーメン乳まん」で受け止める！」

アハハハ

アハハハ

アハハハ

「んっっ」



「マジ」の乳マンコ……気持ちよすぎて腰が抜けるかと思ったぞ」

「先輩……私もう……」

ほおお……♡

「わかってるって、次はオマンコだろ？」

とろとろ



「挿れるぞ……」

「あっ！いきなりっ……！」

ズンズン

んん



「ありが…ひゃっ！」

「いきなりっ…動いたら…駄目ですよお…」

ズニャ

ズニャ

キュン

「ああん」

「ボクはマッシュちゃんの彼氏だよ？」
「彼氏のやることには黙って従うもんだよ」

「マジト……もうイクぞ……」

「私も……イっちゃっ……」

いっ

いっ

「中にたっぷり出すからな……」

「いっ……いっ……いっ……いっ……いっ……」

おっ……

グ

いっ



「おっほおおおおー！子宮で濃厚ザーメン受け止めるっ！」

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

びゅん

「イクウウウウウウッ♡」

ビュッ

ビュッ



「赤ちゃん……できちゃったら……」

ゴロゴロ

ゴロ

キリキリ

「ああ……
ボクが責任もって育てるよ」

「先輩……」



「まだまだヤリたりないんだ…マジッ!」

「先輩の好きなように…してください…」

キョロロ

ドキッ
ドキッ

「そっちなせしてもムソッよ…」



「あん♡」

「念入りに中出ししないと
子供は作れないからな」

♡♡

♡♡

♡
くちゅ♡
くちゅ♡
♡

「先輩……はやく……おチンポください……」

「ボクのチンポの感想はどうだい？」

「太くて…遅しくて…
気持ちいいです…」

アッ

ちゅっ

ちゅっ

「もっと深いところを突いてやるか」



「あん……あんっ……
そ……お……だめえ」

「……」がっ……「……」がいいのか……」

「またいつちやう……
いつちやいます……」

ちゅっ

グッ

ちゅっ

ヌッ

「ボクももうイヤキそうだ……
イクぞマシユー……」

「イクッ！」

びゅん
びゅん

びゅん
びゅん

ちゅー
ちゅー

「んっ…ああん…」



「あっはあゝ
マン』の締め付けで射精が止まらん」

「もっと…
もっとしてくたさう…」

「あはあゝ
マン』の締め付けで射精が止まらん」

「安心してらマンユ、まだまだ時間はあるんだ
たっぷり可愛がってやる」



「んちゅ……ちゅ……」

ちゅっ

ちゅっ

「キスしながら繋がっていると
最高に愛し合ってる感じがするね？」

ズツ

ズツ

「はい……私達愛し合ってますから……」

ちゅぽいっ♡

「先輩……」
「ああ……可愛らめんじゅ」

ぽんっ♡

ぽんっ♡

「先輩のオチンポ
ずっと硬くてギンギン……♡」

ちゅぽ

ちゅぽ

「マシユのオマシユもギユツギユツと
締め付けが続いて、最高だぞ」

「あん♡」

ちゅぽ

ちゅぽ

「んちゅ……ぢゅ……」

れろっ

れろっ

「また出そうだ……
今度も子宮の奥で受け止めてね」

「はい……先輩のザーメンはマシユのものですから♡」

IP
ン

IP
ン

IP
ン

IP
ン



「ハア…ハア…」

ちゅっ♡

「そろそろラブラブHも飽きてきたな…」
「次は趣向を変えて、催眠解除してみるか…」

んん

んん

んん



「ハア…ハア…」

「こんなHな事するのは先輩だけなんですからね♡」

キャッ

ポロポロ

ひゃ

「ああ…ボクのマッシュだもんね♪」

「あん♡」

「何度中出ししても締め付けがたまらん……」

「あん……あっ……♡」

「気持ちいい……
激しく突いて下さいっ♡」

んんん

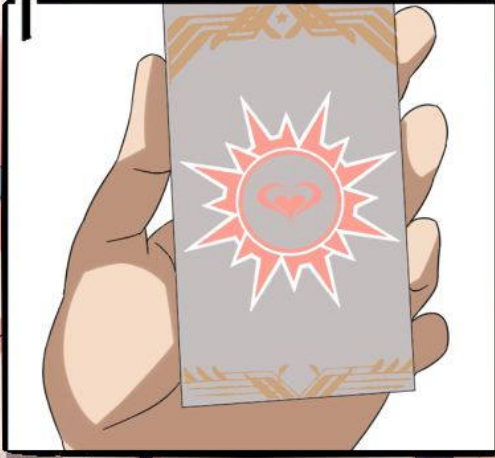
んんん

んんん



「そろそろ試してみるか……」

「あん……あんっ……♡」



キ
イ

ズ
ッ

ズ
ッ

「催眠解除！」

「え……?」「これは……?」



「マジっちゃん……變じてるよ……」

「イヤッ……誰ですかあなたは……やめっ」

ゴキッ

ゴキッ



「うほおおおおっ！妊娠しろっ！」

「イヤッ！抜いてっ！」

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ



「な…何で「こんな」と…」

「さっきまでボクとマッシュちゃんは
愛し合ってたんだよ」

「嘘…「こんな」の嘘です…」

「お…」

「ゴッ」



「こんな事をして良いと思っっているんですか!？」

おっぱい
お尻

「良いと思ってるよっ、
コードを使えば
また忘れるだろうしw」

「……ッ!!!」

おっぱい



「ぬ……抜いてくださいー!」

ビク

ズ
ズ
ッ

「さっきまであんなに
愛し合ったのに寂しいねえ」

ビク
ビク

「な……何をっ」



「「んな……んなの……」

「んんん」

「んんん」

「嫌々やるのも最高だな……
どう？ポクのチンポは？」

「最低です……！」

「んんん」

「んんん」

「んんん」



「マン」は「んなに締め付けてるのになあ？」

「くっ!!はやく止めなさい……!!」

ドクン

ぎゅっ

ぎゅっ

ズッ

ズッ

ズッ

「マッシュちゃんが
ボクの子供を産むまでやめませえんw」

「絶対イヤです……!!」

「たっぷり出たあ♪」

オニキス...♡
オニキス...♡
オニキス...♡

ハハハハハハ

「これでマシユちゃんも受精したんじゃないかあ?w」

「嘘...これは嘘です...
先輩以外の赤ちゃんなんて...嫌あ...」



数か月後

「中出ししまくったおかげで
マシユはボクの子を身籠り、
ボテ腹となった」



「はやく……済ませてください……」

ズルズル

「今挿れるからなあマシユ……」

「んっ……」

ズルズル

ググ

ググ



「痛ッ! ああッ!」

ズク

ズク
ズク

「赤ちゃんがいるからっ…強くないでっ」



「射精るッ!!」

「んんっ……!!」

ゴックンッ

ゴックンッ

ゴックンッ
ゴックンッ
ゴックンッ

ゴックンッ
ゴックンッ
ゴックンッ



「パパのミルクもたっぷり飲んでいい子に育つんでちゅよ♪」

ポロ

とろ...

「(こんな身体になって...
まだセックスするなんて...)」

ポロ

「今度はママのおっぱいの味見といきましようかねえ♪」



「マジュちゃんの母乳うんめええええW」

「んっーんんんんんっー」

「チンポぶち込みながら
母乳飲めるのは格別だわあW」

んんんん

んんんん

んんんんんんんんんん



「あっ……あん♡」

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「マッシュのママミルク
最高に美味しいなあ♪」

♡♡♡

♡♡♡

「あっ……そんなに吸わないで……」



「あん！あんっ！」

「マッシュは母乳吸われながら
チンポ挿れられるのが好きなのか！！
オラツ！！」

ズン
♡

ニヤニヤ

ニヤニヤー♡

アッ

アッ



「あっ……駄目！」

「妊娠マシコ気持ちいいわあ〜」

「あ、あっ!!強くないで!!」



「おお〜イクツッ!イクぞ!」

「あん!あ〜っ!」



「ごめんよマシユ……赤ちゃんは大丈夫だった？」

「はい……ご主人様……優しいんですね……」

「子供に大事な事があつたらいけないしね
あ、そういうえば先輩にマシユが妊娠したってこと報告してないよな？」

「え……？」

「ビデオでボクたちの愛を
伝えたいと思ってさ」

しゃべり

しゃべり

ポルポル



ある日、消えたマシユの行方も分からずに

呆然と居た僕のところにも1通のメールが届いた

中には、男と妊娠したマシユの愛の営みが記録されていた



「ほら、メッセージジメッサージム」

「先輩……見てますか？」

「私、ご主人様とエッチして
妊娠しちゃいました♡」

ゴ
ル
ル
ン...

ク
ン
ン
ン...



● REC

「お腹の中の子がこんなに大きくなっても……あんっ♡」

「フウー！フウー！」

「ご主人様とエッチしてます♡」

ズン

ズン

ズン

ズン



● REC

「んっ…あんっ♡」

あーっ♡

あーっ♡

んっ♡

んっ♡



「ビデオで私達が愛し合っていると」と
赤ちゃんが産まれると「ころまで撮影するから」

「しっかり見届けてくださいね…」

てんてん

てんてん

ビロロ



「イエーイw 先輩見てる？」

「ハア…ハア…先輩…♡」

わっ

わっ

「マンコちゃん
ピースピースw」

わっ

わっ



「おほっ……w」

「……センパイ♡見てくれますか？」



うん

おほっ♡

おっ
おっ

「フウ！フウ！」

「あんっ……♡あっ……♡」



あんっ

あんっ

「先輩とは……エッチ……したことなかったけど♡
「こんなに気持ちいい」とだったとは……知りませんでした……♡」

「ハア……ハア……」

グハ

グハ

グハ

グハ



「イクッ…イククウ♡」



「おっぱい」

グッ

ブルブル

「まだまだゴ主人様と私の愛の営み、撮影してるから♡」

「見てくださる♡」

♡♡♡♡♡



「先輩、見てるー?」

「んっ……ゴ主人様っ……♡」

ひく

びく

「こんな格好
マシユちゃんにさせた」とないだろー?」

♡♡♡♡♡



「ひゃんー!」

ひん、ひん、

「ああ、妊婦マンコたまんねえw」

ズ
ニ
ム



「セ…ンパイ…見てますか？」

わん、

わん、

わん、

わん、

わん、

「ゴ主人様のふっといチンポが
私のオマンコに出し入れされると…♡」

「先輩の粗チンピじゃ届かないと」ろまで届いて」

ズキ
ズキ
ズキ

ズキ
ズキ
ズキ

ズキ
ズキ
ズキ

「フタニシテ...

「ザーメンもすく濃厚なんですっ...っ...っ...」

「こんなにいっぱい……♡
私を孕ませられるのはご主人様だけです……♡」

びく

「ああ〜出してても出してても
この後輩デミマンゴ、射精が止まらないわw」

とと
いはい



●REC

「先輩とは愛を結ぶ」とはできなかつたけど……」

ふ!!るん

「ボクとは結べちゃったもんねw」

ふん

「あっ……んっ……♡」

●REC

「あんっ!」

ぽんぽん

「お腹の赤ちゃんに
まだまだ栄養ミルクを注がないとねw」

ぽんぽん

「んっ…優しくしてくださいね…♡」



● REC

「出産日が楽しみだなあ〜」

「あんっ……あっ……♡」

ぐっ…

ぎゅっ♡

ぎゅっ♡

「気持ち……いい……♡」

「マッシュは「ニグリグリされるのが好きなんだよなw」



「そ」お♡いらのお♡」

「すっかりボクのチンポの形に
慣れてきた感じだなw」

「はい♡ご主人様のチンポ
気持ちいいです…♡」

セッ!

「そろそろっ…射精するぞっ」

おん

おん



REC

「うわー」

「アッ、アッ、アッ」

「うわー、うわー、うわー」

「うわー、うわー、うわー」

「うわー、うわー、うわー」



「この調子じゃ2人目もすぐにできそうだねw」

おっぱい

「はい……♡」

「赤ん坊が産まれたら
すぐ孕ませるからな？マジユ」

「ご主人様の赤ちゃんなら……
何人でも産みます……♡」

ビク

おっぱい

「楽しみだ……♡♡♡」



マッシュと男の腹ボテセックスの次のビデオには

出産の様子が一部始終しっかりと写されていた

嫌悪感と興奮の混ざる感情を抱きつつ、僕は中身を見ることにした



「んっ……んっ……」



「おっ……！頭が見えてきたぞー！」

「んっ……んっ……」

ひん、

「あっ……ん……赤ちゃん……」

「もう少し……で……は……る……ぞ……！……もう少し……だ……！……」

ゴッ

ゴッ……

ん

「シューシュー……」



「マシユ、身体も見えてきた！もうちよつとー！」

「ぶぐぐう……うううううう……」

「踏ん張れ！踏ん張れ！」



「あっ!!あっああああああ」

「おおっ

出てきた!ボクにそっくりだ!」

ひゅん

ひゅん

「産まれた。。。私の。。。赤ちゃん。。。」

ひゅん



「マッシュ」

ビデオに映った最後の映像は

マッシュが産んだ赤ん坊を抱き男と立っている姿だった



「先輩……見てますか？」

「私は今ママとして、『主人様の子供を育ててるんですよ』

んんん

「先輩のところににはもう帰れないけど……」



「私はこの子と主人様からたくさんさんの愛情を貰って幸せです♡」

「センパイとはもう一緒に戦えないし、暮らすことも出来ないですが」

「主人様とこの子と過ごす幸せを噛みしめて日々過ごしています」

ゴウ
ゴウ



「先輩の事は好きだったけど、私は子供を産んで一人の母親としてご主人様を愛するようになって……」

「この幸せを好きだった先輩にも分けてあげたいと思ってビデオを送りました」

んんん



「もし寂しくなったら
私とご主人様の子作り動画を見て
オナニーして慰めてくださいね♡」

「次の子作りも
動画で撮ろうね、マッシュ♡」

ムム

「2人目もすぐに出来そうなので
またビデオ送りますね」



「ではさようなら、私の好きだった先輩……」

